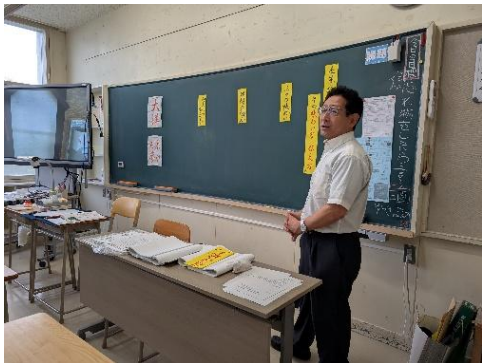


中学校国語教育 実技理論研修会 報告

テーマ	「書写指導における授業改善の手立て」		
日 時	令和8年8月19日(水)		
会 場	恵庭市立恵庭中学校		
講 師	片山 健 教諭		
参加者	28名		
研修会 の 様 子		講師の片山先生には、長年、石狩管内の国語・書写指導を引っ張ってこられた豊富な授業実践をもとに「書写指導における授業改善の手立て」について、数多くのご示唆を頂きました。今回は小学校の先生の参加もあり、「普段聞きたくてもなかなか聞く機会がないことも、学びました。」という声も多く頂きました。時折、実演もして頂きながら、私たち自身も五感を働かせて学びを深める、貴重な時間となりました。	
		まずはじめは、毛筆・行書の魅力とその味わい方、伝え方や向上に向けて、私たちが大切にすべき観点・ポイントの整理などをお話頂きました。その中には、前回の講義の内容である、服装や用具の準備、姿勢・穂先の重要性、筆遣いの基本などもあり、今後の授業に向けて、再確認することができました。	
		後半は、鑑賞について学びました。「寸評を読んで、作品と結び付けよう」「作品を鑑賞し、的確な評価の言葉を当てはめてみよう」という活動を通じて、鑑賞眼・観察眼の養成や視点と言語の養成の大切さなどを学びました。 書写の授業を単に「書く」時間で終わらせない、学びの広がりを感じることができました。	
		最後は参加者一人ひとりが筆ペンを手に、行書の特徴を意識しながら、実際に筆を運ぶ時間を共有しました。時折片山先生のアドバイスを頂きながら、教室内は程よい緊張感と、心地よい静寂に包まれていました。また、片山先生から、参加者全員のお名前を直筆の書で頂くというサプライズも頂き、有意義な研修会を終えました。	